

令和8年2月25日

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	千代田区立昌平幼稚園
所在地	千代田区外神田3-4-7

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

本園の園庭は、旧職員が地域の方々とともに作った田んぼ、ビオトープの池、畑があり、都心にありながらも栽培活動や水生の生き物との触れ合いなどの豊かな体験活動ができる環境である。これらの既存の環境を活かし、幼児が田んぼ・池・畑に関連する様々な対象物と十分に関わり、好奇心や探求心を満足させることができるようにしていきたい。

2. 活動スケジュール

【稲作（5歳児）】…5月に田植えをして、その後は秋の稲刈りまで観察や世話をする。冬季は田んぼの土の手入れを行う。

【ビオトープ（池・植栽等）】…年間を通して観察することで、季節ごとの様子の変化を知る。

【生き物呼び込む環境作り】…枝を積み重ねて虫が集まるように「ソダ積み」の場所を作る。土を掘り起こして雑草を生やす。虫が卵を産みにくる植物を栽培する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ビオトープ用植物（サジモダカ、ヒメガマ、サンカクイ、チガヤ等）、ココナツマット等

…池の環境整備や、生き物呼び込む環境作りの充実を図るため

図鑑・絵本等 …幼児が対象物を観察したり調べたりできるようにするため

プランター、肥料等…稲作・栽培活動や生き物呼び込む環境作りの充実を図るため

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

【虫を呼び込む環境作り・モンシロチョウ】

・モンシロチョウが卵を産めるように、5月上旬に二十日大根を保育者が植えた。また、チョウが幼虫から羽化するまでを観察する経験をしてほしいと願い、保育者宅近くにいたアゲハチョウの幼虫を園で飼育することにした。

・アゲハチョウが羽化したことでチョウへの関心が高まり、二十日大根の葉に幼虫がいることを発見した幼児がいた。羽化するまでを見たいということで、クラスで飼育することになった。

【虫を呼び込む環境作り・トンボ】

・春から夏にかけて、メダカをすくって観察しては池に戻すということを楽しんでいた幼児が、ヤゴを1匹発見し、クラスで飼育することになった。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

【虫を呼び込む環境作り・モンシロチョウ】

・アゲハチョウが幼虫から羽化する様子を見ていたことから、自らどのように世話をしたらよいか考えたり、予想を立てたりする姿が見られた。「何のチョウになるのだろうか？」「何を食べるのだろうか？」という声が幼児から出てきて、保育者が図鑑や絵本で調べることを促すと自分たちで調べ、モンシロチョウになるという予想を立て、キャベツを食べるだろうという話になった。保育者と一緒に、調理の方に給食のキャベツをいただくお願いをして、幼虫の世話を始めた。幼虫がカゴの側面にくつき動かなくなると、「そろそろサナギになるかもしれないね」「そうだね。だって動かなくなったものね」と話す姿も見られた。

【虫を呼び込む環境作り・トンボ】

・ある日ヤゴが脱皮しており、それを見た幼児は「2匹に増えた」「赤ちゃんを産んだのかもしれない」「脱皮したんだよ」と、考えたことや知っていることを話していた。保育者と一緒に絵本や図鑑を調べると、脱皮したということが分かった。

・絵本や図鑑を保育者と一緒に見て、飼育方法を調べて環境を整えていったが、ヤゴが死んでしまった。弔った後、また飼いたいということでヤゴを探すが、池にいなかった。そこで、トンボが卵を産む環境について保育者と一緒にタブレット端末を使って調べたところ、背の高い水草にトンボがやってくるということが分かった。池には背の低い水草が繁茂しており、背の高い水草が育ちにくい環境だったので、保育者と一緒に間引きをした。

<活動の様子>

活動の様子が分かる写真を2枚以上貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

幼児自身の思いや願いを土台として探究を展開していく上では、

- ・対象物に関わる時間を確保すること
- ・対象物について、他の幼児の考えに触れる機会を保障すること
- ・対象物と継続的に関わることができるような環境を構成すること
- ・幼児の知りたい気持ちややりたい意欲に応じていくために、保育者が一緒に調べたり保育者が知っている情報を提供したりすることが効果的であること

などが大切であることを学んだ。

以上